

経済建設常任委員会行政視察報告書

令和4年11月21日

1. 視察期間 令和4年10月26日（水）～令和4年10月28日（金）

2. 視察地 (1) 富山県 砺波市

魅力情報発信強化プロジェクトについて

(2) 石川県 かほく市

上下水道施設の包括的民間委託について

(3) 福井県 大野市

道の駅「越前おおの荒島の郷」について

(1) 魅力情報発信強化プロジェクトについて

富山県 砺波市

①視察地の選定理由

砺波市は、散居景観やチューリップなど豊かな地域資源を広く国内外に発信し、地域イメージの向上と交流人口の拡大を図るとともに、くらしの魅力や充実した各種支援制度を市内外にPRしている。

藤岡市においては、高山社跡、桜山公園などの観光地の魅力の発信、誘客の促進を参考にするため、視察先として選定した。

②市の概要

砺波市は庄川の流域に開けた扇状地、砺波(となみ)平野位置します。名水が潤す豊穡の大地は強靱な増山杉、黄金色の稲穂、色鮮やかなチューリップを育み、日本の原風景を彷彿とさせてくれます。

また、「カイニョ」と呼ばれる屋敷林の中、切妻屋根「アズマダチ」の農家が、碁石を散りばめたように点在する散居村は春から夏は萌える緑、秋は黄金、そして冬は銀白のじゅうたん四季折々、美しい田園風景を見せてくれます。

古き良き歴史と時代の躍動感が、人々の暮らしの中に脈々と息づき日本有数の住み

よさを誇るまちです。

新しい人の和、まちの和が、いま、水と緑の大地に広がっていきます。

人口・世帯（令和4年9月末現在）47,416人（男：23,077人 女：24,339人）
17,458世帯 台帳法改正に伴い、世帯数及び人口は、外国人住民を含んだ数値となっています。

市では、10名の自然環境に造詣の深い方や学識経験者による「市の花等に関する懇談会」が、市民の皆さんの意見をいただきながら決定された内容に基づき、砺波市の豊かな自然を守り、市民の生活に深く結びついた郷土のシンボルとして、砺波市を象徴する「花」、「木」、「花木」、「鳥」を次のとおり制定しました。（H17.7.5）

- （1）市の花「チューリップ」
- （2）市の木「スギ」
- （3）市の花木「エドヒガンザクラ」（江戸彼岸桜）
- （4）市の鳥「ヒヨドリ」

予算規模 一般会計 219億2,300万円 特別会計 51億6,030万円 企業会計 192億1,170万円 合計 462億9,500万円

③視察研修内容

魅力情報発信強化プロジェクトについて

全国的な人口減少社会のなか、県・市外に居住する若い世帯や子育て世帯、観光客を呼び込む政策を各自治体で行っていますが、砺波市においては10WAVEプロジェクトを立ち上げ元気・住みよいまちづくり政策を行ってきました。

その中でWAVE5.魅力情報発信強化プロジェクトを基に情報発信を特化・集中し、チューリップによる情報発信・砺波に来てもらう他の魅力も知っていただくようなプロジェクト・市の税金以外・観光収益による街づくりを行っています。

民間企業と同様、市税以外の外貨を稼いでそれを資本に様々な首都圏プロモーション・魅力情報発信を実施しています。またインターネットによるプロモーション・SNSを活用したインスタグラム・ラインによる広告等、職員が中心となり実践しています。

事業効果は約10億円以上収益があり、これらの収益はこの事業へすべてを繰り入れ、さらなる効果を図っています。

市の魅力発信の意義

- ・観光客を増やし観光客のお金で街を潤す
- ・税金以外のお金で街を潤す！
- ・チューリップによる街づくり・砺波といえばチューリップ
- ・来てみて他の魅力も知ってもらう
- ・散居村風景・温泉・アユ・遊覧船・酒 etc

参考資料

10WAVE プロジェクト

砺波市の将来像「もっと元気ほっと安心ずっと幸せ“やっぱり砺波”」の実現に向け、基本計画に掲げる施策を推進していくうえで、今後、5 か年で特に重点的かつ優先的に実施すべき施策を 10WAVE(テンウェーブ)プロジェクトとして 10 のプロジェクトを設定し、それに波及する効果も期待し、事業の着実な進捗に努めます。

WAVE1. つなぐ子育て応援プロジェクト

安心して子供を産み育てることができるよう、母子保健や子育て家庭へのサポート体制など、妊娠・出産・子育てに対する切れ目のない支援の充実と、質の高い保育・幼児教育の提供を推進します。

WAVE2. 拓(ひら)く質の高い学びプロジェクト

未来を担う全ての子供たちが、互いに思いやりの心を持ちながら、のびのびとたくましく育つ教育環境を整備し、「知」「徳」「体」のバランスのとれた質の高い教育を目指します。また、市民の誰もが、地域の歴史や文化芸術にふれあい学ぶことにより、地域を愛し豊かな心を育む生涯学習の充実を図ります。

WAVE3. 支える健康づくりプロジェクト

住み慣れた地域で、生涯にわたり心身ともに健康で自分らしく暮らし続けることができるよう、地域との連携・協働による乳幼児から高齢者までのライフステージにあった総合的な健康づくりや予防対策の充実を図るとともに、医療・保健・介護・福祉など多職種連携を進め、地域包括ケアシステムを推進します。

WAVE4. 選ばれるとなみ(1073)暮らし応援プロジェクト

全国的な人口減少社会のなか、県・市外に居住する若い世帯や子育て世帯を呼び込み「住みよいまち砺波」を実感し、選び、住み続けてもらうため、移住・定住対策の充実・強化と、世代間で支え合う機能が期待される「三世代同居・近居」の支援を拡充し、将来の人口減少の抑制を図ります。

WAVE5. 魅せる情報発信プロジェクト

市民が住みよさを実感し、より多くの人や企業、団体などから「選ばれるまち」となるため、人と人との結びつきを大切にし、各種広報媒体や SNS を活用した行政情報の速やかな発信と、地域の魅力を積極的に発信します。また、Society5.0 時代の到来に向け、「新しい生活様式」への対応も視野にデジタル化を手段として変革を推進(DX: デジタルトランスフォーメーション)し、行政の効率化と市民サービスの向上を図ります。

WAVE6. 備える地域防災力プロジェクト

地域の防災基盤の整備や自主防災組織などの地域防災力の強化を図り、地域防災体制を充実します。また、国土強靱化地域計画、地域防災計画等に基づき減災対策の充実を図るとともに、災害時に防災拠点となる市役所本庁舎の整備に向けた、基本構想等の策定を進め、災害に強いまちづくりに取り組みます。

WAVE7. 活かす生活基盤等マネジメントプロジェクト

長寿命化計画や国土強靱化計画等に基づき、公共施設や道路・橋梁、公園、市営住宅等の生活基盤・都市基盤について、予防保全的な維持管理も含め、適正にマネジメントを行います。また、安全で安心な水道水の安定的な供給や下水道による適切な汚水処理による環境保全を図るため、中長期的な視点により作成した経営戦略に基づき、持続可能な経営を行い、上下水道施設の整備・更新に取り組みます。

WAVE8. 結ぶ地域公共交通プロジェクト

子供や高齢者等の移動に不便を抱える方にとって必要不可欠な市営バスやデマンドタクシー、民間バス、JR 城端線など、公共交通の利便性の向上を図るとともに、持続可能な公共交通体系の充実を目指します。また、観光客の利便性を高め魅力的なまちとなるよう、二次交通の充実に取り組みます。

WAVE9. 稼ぐ産業振興プロジェクト

全国一の出荷量を誇るチューリップ球根やたまねぎなどの地域特産物の更なるブランド化の推進と販路拡大を図るとともに、農業の6次産業化や農商工の連携により、収益性の高い稼ぐ農業の実現に取り組みます。また、優れた立地条件を生かして企業誘致を推進するとともに、誰もが個々の能力に応じて就労し安定して稼ぐことができるよう、企業立地の推進や雇用創出に向けて取り組みます。

WAVE10. 受け継ぐ循環型社会プロジェクト

自然と人間が共生するまちづくりのため、美しい散居景観を特徴づける屋敷林や伝統家屋などを守り、次世代へ引き継ぐとともに、国の「2050年カーボンニュートラル」の実現に向けた地球温暖化防止活動や資源の有効活用、食品ロス削減運動を推進し、持続可能な循環型社会の構築を図ります。

※「10WAVE」とは、「10波」つまり「となみ」を表しています。

④視察研修考察

魅力情報発信強化プロジェクトの核になっているチューリップフェアによる地域への経済効果は、推定で約10億円はあると説明されました。またこの中でチューリップフェア等の入場料収入でイベント費用・市職員の残業代等を賄っているのも市からの事業経費の持ち出しは無いということです。さらに現在、砺波市・チューリップフェア等の事業プロモーションを北陸新幹線の開通に伴って、首都圏大宮駅・東京駅で展開しています。

何より担当部署職員が民間企業的な営利を追求したような実践的に職務にあたっているように感じられました。

今はどこの自治体も観光に力を入れていて、パンフレットを作ったり、鉄道会社とキャンペーンをやったり、イベントを開催したり、テレビの番組誘致をしたりと、業務は多岐にわたります。

本市においても鬼石総合支所にぎわい観光課の職員が二つの名勝天然記念物、三波川冬桜・県立桜山公園、また、三波石峡・下久保ダム湖の観光資源を活用した各種イベントを企画し、地域住民・商店街・観光協会等一体となって賑わいづくりを行っています。かなりの経済効果をもたらしていると思います。

観光行政では、地域の活性化というのがキーワードだと思います。旅行会社と違うのは、最終的に地域にお金落ちて経済効果を生み出すことが目的だということです。

情報発信やイベント企画は、観光担当の仕事の一部でしかありません。地域に



市役所前

おける観光への機運醸成や受け入れ体制整備支援、そして、情報発信支援が、主な行政の役割ではないか考えます。

(2) 上下水道施設の包括的民間委託について

石川県 かほく市

①視察地の選定理由

かほく市は、水道、公共下水道、農業集落排水施設の維持管理業務を一元化し、包括的民間委託をすることで、効率的な事業運営を行っている。

本市においては、民間委託を行っていないが、今後、人口減少などによる収益の減少、管路の老朽化などの問題が考えられ、今後の事業の効率的な運営の参考にするため、視察先として選定した。

②市の概要

かほく市は、石川県のほぼ中央に位置し、県都金沢市の約 20～25 キロメートル圏内にあります。西に風光明媚な日本海を望み、北は宝達志水町、東は津幡町に、南は内灘町に接しています。

地勢については、東から西に向かい、山地、丘陵地、段丘地、沖積低地、海岸砂丘地で形成されており、北部では大海川が日本海に、南部では宇ノ気川が河北潟に注いでいます。また、これらの地形と一体となった緑豊かな自然環境を有しています。

令和 2 年の国勢調査によると、市の総人口は 34,889 人、世帯数は 12,528 世帯、1 世帯当たりの人口は 2.78 人。

推移を見ると、人口はほぼ横ばい、世帯数は増加傾向を示しています。このことから、1 世帯当たりの人口は減少しており、核家族化の進行がうかがえます。また、老年人口比率や年少人口比率の推移を見ても、少子高齢化が進行していることがわかります。

平成 16 年 11 月に実施した「かほく市総合計画」策定にともなう市民アンケート調査（有効回答数 900/送付数 3,000）を基本に、市の「花・木・鳥」が決定しました。

これは、「市のシンボリックなイメージをさそい、市民の融和と一体感を共感できるもの」という観点で「かほく市総合計画審議会」の答申を受け制定したものです。「ハマナス」及び「シロチドリ」については自生・生息する場所が旧三町を繋いだ地域資源である海岸線・海浜地であり、市の花・鳥として申し分ないと判断されました。「桜」は、市内随所に銘木、並木帯が見られ、かほく四季まつりのひとつである桜まつりが開催されているなど、市のシンボルとして将来の発展と市民の融和を願い植栽していくことに最も適当であることが主な決定要因となりました。

また、旧町時代よりそれぞれ町の天然記念物（旧七塚町 ハマナス、旧高松町 シロチドリ、旧宇ノ気町 上山田のしだれ桜）に指定されており、市民への愛着と浸透は深く、アンケートにおいても上位を占めた理由と考え、決定したものです。

予算規模 一般会計 161 億 2,000 万円 特別会計 73 億 7,190 万円 企業会計 39 億 4,547 万円

③視察研修内容

上下水道施設の包括的民間委託について

かほく市（人口 35,182 人：2018 年 3 月 31 日現在）は、それまで公共下水道事業と農業集落排水事業のみ個別で導入していた包括的民間委託の事業範囲を拡大し、2013 年には水道事業を含む 3 事業すべて、更に 2018 年には料金徴収業務・窓口関係業務と管路管理業務（水道事業）を加えた一体型包括委託を「かほくモデル」として実現しました。

水道事業・下水道事業・農業集落排水事業において求められる人材や技術が類似しており、既に民間事業者が運転のノウハウを有していたことから、管理者を統合する前提で包括委託が進められてきました。

第 1 期包括的民間委託（H22～H24）

- ・公共下水道・農業集落排水事業について包括的民間委託を実施
- ・年間約 1,500 万円の削減効果

第 2 期包括的民間委託（H25～H30.3）

- ・H25 から上下水道に係る業務を一元化
- ・5 年契約により安定した雇用を確保・コスト削減
- ・第一期包括的民間委託の方法と比較して約 8% 5 年総額約 7,500 万円の削減効果
- ・水道施設 各地区の給水管末端で残留塩素濃度を見ながら、塩素注入量を調整することで安定した濃度管理が実現された
- ・下水道施設 CDO の処理水質が約 12%改善された
- ・農業集落排水事業 BDO の処理水質が初年度で約 175、H 29 年度では更に約 15%改善され、良質な保留水質が確保された



第 3 期包括的民間委託（H30.4～R4）

- ・維持管理のレベルを向上させるため全国プロポーザル方式を採用
- ・上下水道一体管理の効果
施設修繕費の増額・漏水調査・量水器定期交換・管渠清掃・上下水道料金徴収・滞納整理・窓口業務・（開閉栓）等
窓口業務を委託することで行政サービス向上
修繕費の増額により業者が維持管理目線で計画修繕ができる
下水道管路調査と修繕を共に含めることで同一業者で迅速効率的な対応ができる

第 4 期包括的民間委託（R5～R9）

- ・広域連携での量水器共同購入事業実施まで時間がかかるため業務範囲へ
- ・市予算から業務範囲へ

④視察研修考察

今回かほく市の水道事業・下水道事業・農業集落排水事業を含む3事業すべて、更に2018年には料金徴収業務・窓口関係業務と管路管理業務（水道事業）を加えた一体型包括委託「かほくモデル」を行政視察しました。

水道事業・下水道事業・農業集落排水事業において求められる人材や技術が類似しており、既に民間事業者が運転のノウハウを有していたことから、管理者を統合する前提で包括委託を推進していました。

維持管理のレベルを向上させるため全国プロポーザル方式を採用し業者選定をし、包括的民間委託したことで初年度から年間約1,500万円の削減効果、下水道施設CDOの処理水質が約12%改善、農業集落排水事業では、BDOの処理水質が初年度で約175、H29年度では更に約15%改善され、良質な保留水質が確保されたこと、また窓口業務を委託することで市民への行政サービス向上が随所に見られました。

本市の水道事業は平成7年をピークに給水人口は減少傾向にあり、また、水道施設の老朽化が進行し、施設の計画的な更新や再構築などが今後の重要な課題であり新たな局面を迎えています。

料金収入が減少傾向にありますが、安全かつ良質な水を安定的に供給し、快適で豊かな市民生活と事業活動を支えるとともに、災害に強いライフラインを構築することが使命であります。また水道料金を現在の料金のまま維持していけるか、また料金改訂の時期がいつ頃になるのか市民にとっては重大な問題であります。

水道事業改修工事は令和元年度から約30億円をかけ各浄水場を改修するところです。主な工事・予定工事は次のあげるものです。

- ・南山配水池の更新

実施期間：令和元年度から令和3年度 事業見込総額：9億6,702万円

- ・中央浄水場中央監視装置の更新

実施期間：令和4年度から5年度 事業見込総額：5億8,938万円

- ・中央浄水場機械電気設備の更新

実施期間：令和4年度から令和8年度 事業見込総額：6億7,854万円

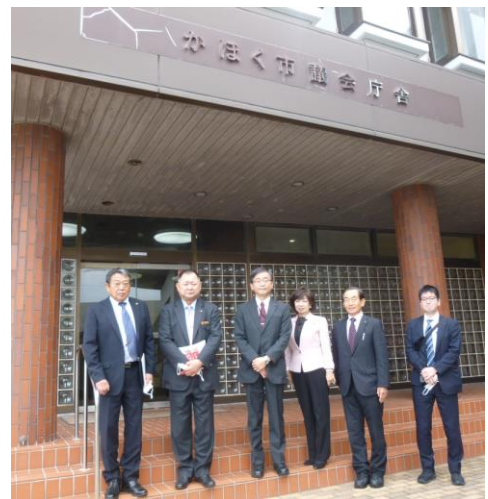
- ・上の山浄水場の耐震化工事

実施期間：令和3年度から令和6年度 事業見込総額：8億4,577万円

また今後、本事業においては水道本管等の老朽化も進んでおりこれからも莫大な費用がかかるところであります。

また、下水道事業においても令和7年を目途に事業認可区域の整備を進めているところですが、多額な費用がかかります。

また下水道事業においては未接続の問題もあります。さらには本市においては生活排水処理事業がなかなか思うように進まない点があります。この点については前に指摘したことがありますが市で設置した場合、1か月一基について約3,400円くらいの費用が掛かり、一人暮らしになった時の負担を考えるとなかなか設置できないということに



議会庁舎前

なります。ここで下水道事業と1元化して料金体系を同一算出方法にすればこの事業も進むのではないかと考えます。

どの自治体においてもこれから先、水道事業、下水道事業、本市と同じような地域の自治体では生活排水処理事業に費用がかさんでいくのは目に見えています。

本市においても、かほく市のような包括的民間委託をはじめ、最終的には料金徴収業務・窓口関係業務と管路管理業務（水道事業）を加えた一体型包括委託「かほくモデル」のような、効率よく事業経営していくことが望まれます。

(3) 道の駅「越前おおの荒島の郷」について

福井県 大野市

①視察先の選定理由

道の駅「越前おおの荒島の郷」は、地場製品の販売所、フードコート、アウトドアショップ、カヌーやクライミング体験など、多彩な営業展開となっています。

本市には、道の駅「ららん藤岡」があり、食事や買い物、休日には様々なイベントが開催されるなど、子供からお年寄りまで楽しめる人気スポットとなっています。ららん藤岡のより効率的な施設運営の参考にするため、視察地として選定しました。

②市の概要

大野市（人口31,615人：令和4年1月1日現在）は、霊峰白山の支脈に囲まれた緑豊かな自然とおいしい水、と食に恵まれ、歴史・文化・伝統が息づく城下町から成り立っています。大野盆地は、日本百名山のひとつ「荒島岳」などの雄大な自然に囲まれ、山を下りながら磨かれた美しい水は湧き水として、わたしたちにたっぷりの恵みをもたらします。

大野市を表す言葉「結の故郷越前おおの」は、昔から今日までお互いに助け合う習慣や、様々な地域との絆を大切に育んできた大野市を「結」がたくさん詰まった一つの「故郷」と位置付け表現したものです。「結」という言葉には昔の村の生活において、田植えや稲刈りなどの農作業、狩猟や植林などの山仕事、道路を直したり橋を付け替えたりなどの修繕、そのほか冠婚葬祭などのいろいろな仕事をお互いに助け合う習慣の意味があります。その他に、これまでの歴史において大野市が地域と地域を結ぶ役割を築いてきたことや、各地域の活性化に結びつく役割を担っていく意味も込めています。

福井県内の市町の中では最大の広さを持ち、県面積のおよそ5分の1を占めます。市街地はかつての城下町の面影を強く残し、越前の小京都として知られています。春分の日から大晦日の間に七間通（しちけんどおり）で開かれる七間朝市は、400年の歴史を持つ大野の観光名物です。日本有数の豪雪地帯であり、特別豪雪地帯に指定されています。非常に積雪量が多く、九頭竜ダムなど大規模な人工湖も点在しますが、その膨大な水量とは裏腹に名水と謳われる市街周辺の湧水や河川伏流水は道路などの消雪のためにも汲み上げられ、水不足が懸念されるといった皮肉な状況となるため、河川表流水を含めた総合的な水利用のあり方を模索しています。

予算規模 一般会計 172 億 7800 万円 特別会計 82 億 713 万円 企業会計 21 億 8412 万円 合計 276 億 6925 万円

③視察内容

「道の駅」は全国に約 1,200 駅があり、安全で快適に道路を利用するための道路交通環境の提供と地域のにぎわい創出を目的とした施設で、「地域とともに作る個性豊かなにぎわいの場」を基本コンセプトにしています。

「道の駅」は 3 つの機能を備えており、24 時間無料で利用できる駐車場、トイレなどの「休憩機能」、道路情報、観光情報などの「情報提供機能」、文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設で地域と交流を図る「地域連携機能」があります。

駅ごとに地方の特色や個性を表現し、文化などの情報発信や様々なイベントを開催することで全てのお客様に対するサービスの向上に努めています。

今回、高速道路関連会社 中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋（株）が大野市の指定管理を受け運営管理する 道の駅「越前おおの荒島の郷」を行政視察しました。

この道の駅は令和 3 年 4 月 22 日に開業しました。「休憩機能」、道路情報、観光情報などの「情報提供機能」、文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設で地域と交流を図る「地域連携機能」の基本的な機能のほか、自家発電機能や防災ヘリの離発着場を有するなど「防災機能」を兼ね備えている道の駅です。令和 3 年 6 月には、福井県初の防災道の駅にも選定されています。施設概要は大野市が約 35 億円をかけ整備した、敷地面積約 5 ヘクタール、建物総面積 5000 m²、約 200 台の普通車・大型車が駐車可能な北陸では最大級の規模です。設計段階で長距離移動の方が安心して休息できるようにシャワールームを整えると共に、車中泊専用の駐車スペース「RV パーク」が整備されています。

運用方針としては当社の企業理念に基づき「地域の強みを活かし、地元の方々と共に地元で愛される道の駅」と掲げ、ターゲットをファミリー層に定め、旅の目的として魅力を感じてもらえる仕掛けを創出しています。

ららん藤岡と同様な地元産の新鮮野菜の直売所、恵まれた水を活用したイワナや国の天然記念物のアラレガコなどの「ミニ水族館」、屋外施設として「荒島岳展望台」があります。また特産品の 6 次産業化の取り組みとして大野産コシヒカリ 100% 使用した米紛バームクーヘンの製造・販売を当社直営で行っています。

特産品を提供することを目的に開業 3 年前から準備を進め、地元農家やお菓子製造業者を中心に約 300 人の「産直の会」を立ち上げています。また地元で飲食店が 5 店舗出店し、チャレンジショップ等も運営している。運営内容としては本市のららん藤岡で行っているものとほぼ同様な運営でありました。

最後に中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋（株）では地元の強みを活かしたこの道の駅の運営は地元住民の皆様の理解と協力がなければ実現可能ではなかったと言っています。さらに信頼関係を構築しながら、多くの方が参加できる体制づくりを進めることが重要と説明されました。

④視察研修考察

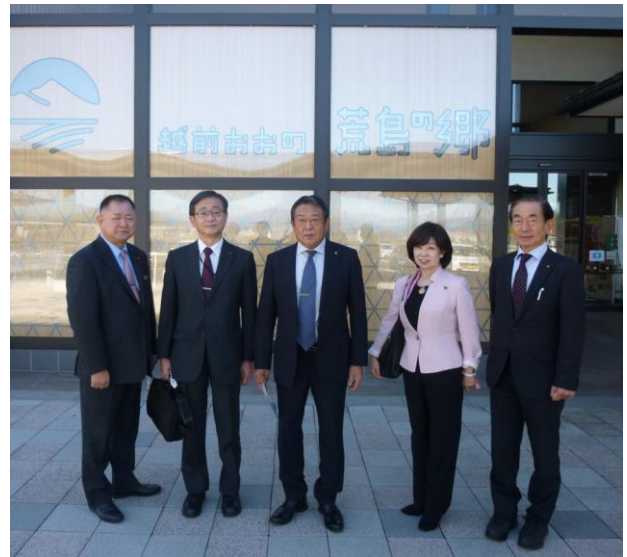
今回行政視察した道の駅「越前おおの荒島の郷」は入場者数では本市のららん藤岡にはまだまだ遠くおよびませんが、開業して3か月で約30万人を突破している、この地域で人気ある発展途上の道の駅です。

特色のある点では自家発電機能や防災への離発着場を有するなど「防災機能」を兼ね備えている点、恵まれた水を活用したイワナや国の天然記念物のアアレガコなどの「ミニ水族館」、屋外施設として「荒島岳展望台」等 地域の自然を生かしたものがあります。また長距離移動の方が安心して休息できるようにシャワールームを調えると共に、車中泊専用の駐車スペース「RVパーク」が整備されているなど他の道の駅にはない最新のサービスもあったと思います。

本市の道の駅は全国の有数の人気ある道の駅ではあります。今後周辺に観光農園も開設予定でもあり、さらに地域の賑わいづくりに寄与できるものと考えます。

しかし、それ以上に本市の道の駅はポテンシャルがあるものと思っています。ららん藤岡と藤岡 JC インターチェンジのアクセスが上下線より直接ららん藤岡へ侵入できるように整備すること、また各地のスマートインター等で導入されている「賢い料金」制の導入が規制緩和により実現できれば、現在の観光客の入り込み客数より、拡大の増加が見込めると考えます。

藤岡市の高速道路規制緩和に向けての前向きな取り組みを大いに期待するところであります。



道の駅入口前

以上のとおり、報告いたします。
令和4年11月21日

経済建設常任委員会

委員長 岩崎 和則

小西 貴子

青木 貴俊

窪田 行隆

茂木 光雄